

ハートラムという超低床の路面電車が走っているのをご存じですか？体の不自由な人やお年寄りなども含めて、すべての人が安心して乗降できるように、普通の電車より乗降口の段差が低くなっている車両のことです。

このように、障害の有無や年齢などにかかわらず、すべての人の快適さや便利さを考えた「ユニバーサルデザイン」の乗り物や施設が、私たちの身近によく見られるようになってきました。

先日、ある学校を訪れる機会がありました。教室をのぞいてみると、黒板周りが非常にすっきりとしていると感じました。授業中、子どもたちの視界にいろいろなものが入って気が散らないようにしているそうです。

この学校では教室環境を工夫するだけでなく、授業の中でグループでの話し合いや教え合いの時間をつくりメリハリのある流れにするなど、すべての子供たちが安心して授業を受けることができるように「ユニバーサルデザイン」の視点を授業に取り入れているそうです。その結果、子どもたちは以前よりも集中して授業に取り組む

「すべての子どものために」

姿が増えてきました。

文部科学省の平成23年度の調査によれば、何らかの特別な教育支援を必要とする子どもたちが、全体の6.5%の割合でクラスに在籍しています。これは、30人のクラスの場合でいうと2人いるということになります。また、その他にもさまざまな刺激によく反応する子どもなど、先生方にとって配慮が必要な子どももいるでしょう。

この学校のように、すべての子どもたちが安心して授業に向かうことができる「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業がどんどん広がって、教室にさらにたくさんの子どもの笑顔があふれるといいなと思います。

*このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願う人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで